写真右から花田さん、横田さん、村野さん、中島さん、渡邉さん。

未来を描く！ 創る！

イノベーティブな生徒たち

第5回

「他者のために何かをしたい！」たどり着いたのは、小学生への学習支援

ones（ワンズ）

村野佑恭（うきょう）さん・5年生／横田蒼太（そうた）さん・5年生／渡邉 澄（すみ）さん・5年生

中島紀穂さん・5年生／花田優太さん・5年生

東京都立南多摩中等教育学校

近隣の公立小学校の「放課後子ども教室」に参加し、勉強を教える東京都立南多摩中等教育学校のチーム「ones」。チームの発足は2020年6月で、社会問題に関心を持つ当時4年生（高校1年生）の3人が結成した。そのうちの1人の村野佑恭（うきょう）さんが、「高校生になったのだから、社会貢献につながる活動に挑戦してみよう」と同級生に声をかけたのが始まりだ。

「横田（蒼太（そうた））くん、渡邉（澄（すみ））さん、そして私の3人が関心を寄せる共通の社会問題が、子どもの貧困でした。貧困は、子ども本人に原因はないのに、子どもの力ではどうにもならない問題です。2人と一緒にこの難題に取り組んだら、きっとやりがいがあるだろうなと思いました」

20年の夏季休業中に、3人は地元の八王子市役所を訪問し、市内における子どもの貧困の状況を聞いた。さらに、経済的に苦しい家庭の中高生のために無料の学習支援を行うNPO団体を訪ね、教育の重要性についても学んだ。だが、子どもの貧困という大きな問題に対して、具体的に何をすればよいのか、まだ3人に

読者の先生方がご存知の「イノベーティブな生徒たち」をご推薦ください！
ご推薦いただける場合は、右の2次元コードをスマートフォン等で読み取っていただき、フォームに沿ってご推薦内容をご入力ください。

イノベーションの芽を育てる

教師たち

東京都立
南多摩中等教育学校
生徒部
橋本瑠美子

同志の存在が熱意を行動に変えた

高校１年生になったばかりの３人に、「子どもの貧困の問題の解決に貢献する活動をしたいので、顧問になってほしい」と頼まれました。彼らの熱意は伝わってきましたが、勉強や部活動で忙しい彼らに、どこまでのことができるのか、私には分かりませんでした。しかし、彼らは、定期的に図書室に集まり、話し合いを続け、活動のアイデアを実現させました。そして今、後輩にその活動を引き継ごうとしています。彼らの行動力や主体性は本当にすごいと思います。他者のために、必ずしも自分がしなければいけないことではないことを続けられたのは、同じ志を持つ仲間がいたから、そして、提案発表会というアウトプットの機会が適切なタイミングであったからだと思います。私自身、世界を変えるのは彼らのような若者なのだと学びましたし、生徒たちから未来への希望をもらったような気がしています。

転機となったのは、顧問の橋本瑠美子（るみこ）先生から勧められた、八王子市主催の「高校生によるまちづくり提案発表会」への参加だ。高校生の立場で子どもの貧困という社会問題を解決することは困難であり、経済的な支援だけでは根本的な解決にはならないと気づいた３人は、今まで調査してきたことと、自分たちだからこそできることを照らし合わせて話し合った結果、子どもの将来につながる学習の支援にたどり着いた。21年２月の同発表会では、小学生や保護者、「放課後子ども教室」の活動拠点となる小学校、そして活動に参加する高校生、それぞれにとっての相互的なメリットを訴えながら、高校生による小学生への学習支援という政策を提案した。

その後、八王子市の後押しを得て、21年７月の第１回以降、「ｏｎｅｓ」はこれまでに３度小学校を訪れ、学習支援を行った。チームの発足から取り組みの実現までの１年間を、渡邉さんは、「自分たちで意思決定できたから、モチベーションを維持し続けることができた」と振り返る。

「３人で最初に話し合った時に、先生に活動のレールを敷いてもらうのではなく、自分たちが主体となって活動していこうと確認しました。誰かにやらされている感じがなかったからこそ、紆余曲折があっても続けられたのだと思います」

提案した政策が実現したからこそ、課題も見えてきたと横田さん。

「小学生の宿題を見てあげるだけでは、その子の人生に十分な影響を与えられませんし、本当に支援を必要としている子どもの助けになっているとは言えません。現場に出たことで、学習への意欲が低い小学生の様子が分かったのは進歩ですが、子どもの貧困の問題の解決という、活動の本来の目的に対して何ができるのか、引き続き考えていきたいです」

22年３月には、子どもたちがクイズ形式で楽しみながら学習できる活動を企画・実施する予定だ。ただ勉強を教えるのではなく、遊びやものづくりの要素を盛り込むなど、高校生らしいアイデアで、子どもたちが自然に「学びは楽しい」と実感できる活動を追求したいと３人は語る。

「『ｏｎｅｓ』には新たに２人のメンバーが参加してくれました。また、小学生への学習支援を手伝いたいという生徒を、『ｏｎｅｓサポーター』として校内で組織化することもできました。今後の活動を引き継いでもらう後輩の育成も進め、活動が自分たちの代だけで終わらないようにしたいと思っています」（村野さん）

チーム名の「ｏｎｅｓ」には、困難を抱える人々の、一人ひとりの事情や思いに寄り添いたいという思いが込められている。かけがえのない個が集う社会をよりよくするための高校生の挑戦は、これからも続く。

学校プロフィール

設立　１９０８（明治41）年
形態　全日制／普通科／共学
生徒数　１学年約１６０人
２０２１年度入試合格実績（現役のみ）
国公立大は、北海道大、東北大、東京工業大、一橋大、横浜国立大、京都大などに56人が合格。私立大は、慶應義塾大、上智大、東京理科大、明治大、早稲田大などに延べ３９９人が合格。